

# ぐんぐんぴっぴ

(就学前)

9月にぐんぐんぴっぴで働きだして3ヶ月がたちました。その間にも、アイコンタクトの取れなかったAくんがスタッフの顔を見てお菓子を要求したり、おもちゃを渡すとそれと一緒に遊ぶという合図と思っていたBちゃんが「先生、一緒に遊ぼう」と声をかけてくれたり、おやつで「先生見て見て!」やお友達に「見せて」と自分から呼びかける、相手を意識した声かけが増えていたり、どんどんとできることが増えていく場面にたくさん出会いました。日々成長していく子どもたちに元気をもらいながら、楽しく働いています。

さて、話は変わって、11月第5週目には、グループ活動を取り入れているお子さんを対象にクリスマスブーツ作りをしました。今回の活動では、“保護者の方に材料をそろえる指示書を作る過程を体験してもらう”を、テーマに行いました。

○一度の指示で子どもが自立して準備できるもの

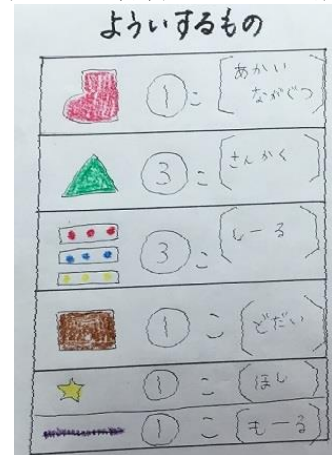
○途中での声かけはなし

という大枠をお伝えし、指示書作りのスタートです。

初めはどうしようと悩まれていたお母さん方も、「うちの子、いっぺんに視界に入ると抜けることあるからどうしよう？」

「うちは全部分かったほうが安心して進められるかも。」と、スタッフや他のお母さん方と、それぞれのお子さんの特性に立ち返りああしようこうしようと考えられている姿がとても印象的でした。

「先生、この材料使ってもいい？」と絵ではなく実物を貼ってみたり、「キラキラしたものが好きだから」と先にシールやモールを選べるように順番を変えたり、大きなトレイに張り付け片手で持って回りやすいようにされたり、小さなトレイに一種類ずつ持ってこられるようにしたりと、すべてお見せできないのが残念なほど、バラエティにとんだ素敵な指示書が出来上がりました。





普段は自分たちの使う机でお母さんが一生懸命に作業される様子を興味津々で見ている子どもたち。お母さんから指示を聞いてうれしそうに材料を集めていきます。指示通り集められた子もいれば、途中で困ってスタッフに質問した子、数が違っていた子、中には最初のスタッフの手順説明のモデルが入って指示書はほとんど見ないでそろえた子(それも大事なスキルの一つですよ!)と様々でした。

そしてその日の振り返りでは、「こんな風に考えてこうしたら、うまくいった!」「指示書自体は良かったけど、トレイに張り付けると倒れて見えなくなっていた。」「シールの数が分かりにくかったみたい。」と、こうしたのがよかった、あの場面で困っていたみたい、どうしたらもっと伝わるかな、どんな方法がいいだろうと、盛り上がりました。いつにもまして保護者のみなさんとスタッフが思いを共有できたのではないかなと思います。

今回、保護者の方にも体験していただいたことで、お子さんのことを一緒に考えるチームのような一緒に応援するサポーターのような一体感を感じました。お子さんの特性の捉え方や、声掛けなどスタッフも参考になることが多く、とても良い機会となりました。

お子さんが支援を必要としている場面はぐんぐんびっぴの療育の場面だけではありません。今回のように、保護者の方がお子さんにとって有効な支援について考え、作成し、お子さんの様子を見て振り返ったことのすべてが、これからの家庭や園、学校でのお子さんの支援へとつながっていくことでしょう。

今後も、保護者の方と一緒に、療育を通してお子さんに必要な支援を考えていきたいと思えます。